

馬獣医のよもやま話②9 池田 寛樹獣医師

哺乳期当歳の胃潰瘍について



静内診療所 池田 寛樹

新ひだか町静内出身

平成22年3月酪農学園大学卒業

平成22年4月日高軽種馬農協入社

静内診療所勤務 現在に至る

7月に入り出産や種付けも終わり、落ち着いた日々をお過ごしでしょうか？それともセリの準備や牧草で慌ただしい日々をお過ごしでしょうか？今回は哺乳期当歳で比較的この時期に多く見かける病気として胃潰瘍についてお話させていただきたいと思います。

哺乳期当歳の胃潰瘍は、健康に見える馬でも約50%で認められたという報告もあり、目に見える症状を示さないことが多いことから、沈黙の潰瘍（silent ulcers）とも呼ばれています。自然に治癒する場合がほとんどですが、症状が現れる頃には程度が進んでいることも多く、放っておくと十二指腸潰瘍や逆流性食道炎・食道潰瘍、さらには潰瘍部における穿孔など重篤な合併症を引き起こします。経過も早いことから、気付いた頃には手遅れだったなんてことも起こりえます。

症状・診断方法

元気消失、哺乳欲の減退、下痢、歯ぎしり、流涎、疝痛などがあります。歯ぎしり、流涎などは特徴的ですが初期症状として現さないことも稀ではありません。その他症状はこの病気に限って出てくるようなものではありませんので確定診断を行うには胃内視鏡検査を行うことが最も確実です。

要因

過剰なエネルギー摂取

濃厚飼料の過剰摂取は胃内pHの低下や胃酸分泌を促進するため、胃潰瘍発症に大きく関連します。母馬の飼料をよく食べるような当歳は注意が必要で、そういった馬は母馬の飼料桶を高くするなどの工夫が必要かもしれません。また、濃厚飼料は食べるけど乳の飲みが悪いなんていう場合は要注意です。エネルギーの過剰摂取は骨端症などの成長期運動器疾

患（DOD）とも関連しますので適切な給餌量・給餌方法が大切です。

ロタウイルス感染症

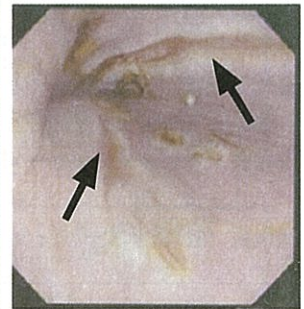
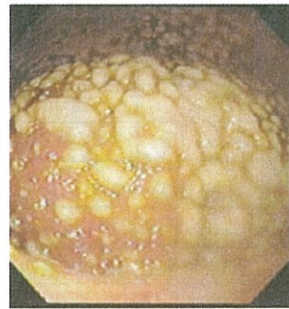
ロタウイルス感染と胃潰瘍が併発するケースが多いことから、ロタウイルスによる感染が胃潰瘍の発症に何らかの影響を及ぼしている可能性が疑われています。

ストレス

長期間の舎飼いや痛みなどによるストレスが胃潰瘍発症のリスクを高めます。やむを得ない場合はあるでしょうが、なるべくストレスを減らしてあげることが必要です。

その他

バナミンなどの非ステロイド性抗炎症剤（NSAIDs）の長期間投与なども要因となる可能性があります。



写真左:胃の無腺部(本来なら全体が白く見える上皮で覆われている)における潰瘍。

写真右:胃潰瘍に続発した食道潰瘍(矢印部)。

予防・治療薬

まずは原因となるストレスの除去が必要ですが、予防・治療薬としては胃酸分泌を直接抑制するオメプラゾール製剤（ガストログードなど）が最も効果的です。その他胃粘膜保護剤や制酸剤（胃酸を中和する薬）などもありますので、上述した要因に当てはまる様な場合には、予防もしくは治療の目的に合わせてこれらの薬を使用することをお勧めします。

以上となります。最後までお付き合いいただきありがとうございました。